未来を創る子どもたちのために

将来における小・中学校のグランドデザイン（全体構想）

問い合わせ 教育部総務グループ（☎㊽１１１０）

人口減少が進む中で子ども達の教育環境を確保していくために

地方自治体は、一部の大都市を除き、深刻な人口減少に直面しています。

私たちのまち登別も急速に「まち」の縮小が進み、市の人口は、最も多かった昭和58年度には5万9千人を超えていましたが、令和3年度現在、4万6千人台まで減少しています。

この間、市の小・中学校に通う子どもたちの数は、最も多かった昭和58年度の8千885人から6割以上減り、令和3年4月には2千900人台まで減少しました。

現在、市内に13校ある小・中学校では、子どもたちの数が減ったことにより、学級数や1学級当たりの人数が減り、学校の規模が小さくなってきています。

学校の規模が小さくなることは、教師の目が子どもたちにより行き届くようになったり、子ども同士の交流が深まりやすくなったりするなどの「良さ」もあります。

しかし一方で、1に示すようなさまざまな「課題」が生じてしまいます。

この先、小・中学校の小規模化が一定程度進むと、これらの「課題」を教職員の工夫だけで

学校規模が小さくなることによる「課題」の例 1

- クラス替えが難しく、人間関係や相互評価が固定化しやすい。
- 多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨（せっさたくま）する機会が少なくなりやすい。
- 運動会などの集団による教育活動に制約が生じやすく、特に中学校では部活動の選択の幅が狭くなりやすい。
- 教員配置数が減り、小学校ではグループ学習や習熟度別学習など、多様な指導形態を取りにくくなる。また、中学校では各教科の免許を持つ教員を配置しにくくなり、教職員が免許を持っていない教科を例外的に受け持つ「免許外指導」が発生しやすくなる。

克服できなくなることも考えられるため、市教育委員会は、平成26年5月に『登別市学校適正配置基本方針』を策定し、市の学校・学級規模の目安や、学校統合など規模を適正化するための手法、適正化に向けた取り組みなどに関する考え方をまとめました。（2のとおり）

また、平成27年1月には、国が『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』を策定し、望ましい学級数や通学距離の目安などを示しました。（3のとおり）

市教育委員会は『学校適正配置基本方針』を策定してから、各小・中学校の学校運営協議会で適正配置の取り組みに関して説明を重ねてきたほか、令和元年度に、学校規模の縮小が進む中学校区の保護者や地域に住む方との意見交換会を開催しました。

しかし、その後も児童や生徒の人数は予想を上回る速度で減少し、いくつかの学校では小規模化による「課題」が目立ちつつあることから、市教育委員会は、令和3年度から、子どもたちの教育環境を確保するため、学校規模適正化に向けた取り組みを具体的に進めることにしました。そして、今後35年間の学校配置の在り方を示す「将来における小・中学校のグランドデザイン（全体構想）」を策定しました。

将来における小・中学校のグランドデザイン（全体構想）

「将来における小・中学校のグランドデザイン（全体構想）」は、将来の学校配置の在り方を示すものです。

令和37年度までの35年間を第1期～第3期に分け、それぞれの期間にいるであろう市内の児童・生徒の人数を基に学校・学年ごとの人数を推計し、学校や学級の規模を予想しました。

市教育委員会は、この予想を基に、学校統合の方向性などを含め、各期間の学校配置の姿を検討しました。

第1期（令和3～7年度）

第1期の期間は、市のまちづくりの基本指針である『第3期基本計画』に合わせて、令和3年度から令和7年度までとしています。

この間の児童・生徒数の推計値に基づく学校・学級規模が、『学校適正配置基本方針』で示した学校・学級規模の目安を下回る見込みとなっていることや、小規模化による「課題」がすでに生じていることといった条件を満たす学校を対象に、学校統合の取り組みを検討しました。

児童・生徒数は、令和3年4月に2千924人であったものが、令和7年度には2千635人まで減少すると予想されます。

幌別地区の幌別東小学校は、令和7年度以降、2つの学年を一つにまとめた複式学級が継続的に生じ、『学校適正配置基本方針』で示す学校規模の目安を下回ることが予想されます。

また、登別地区の登別中学校は、すでに1学年1学級の状況が続き、『学校適正配置基本方針』で示す学校規模の目安を下回っています。さらに令和5年度以降は学級規模の目安を下回る学年が複数生じることが予想されます。

このため、第1期中に登別中学校を幌別中学校に統合し、加えて幌別東小学校を幌別小学校に統合することを想定しています。

なお、登別地区の登別小学校は、今も『学校適正配置基本方針』で示す学級規模の目安を下回っていますが、同地区唯一の小学校であることから、他地区から子どもたちを受け入れることなども検討しながら、存続させることを想定しています。

この結果、現在13校の市内小・中学校数は、第1期中に11校にすることを想定しています。

第2期（令和8～17年度）

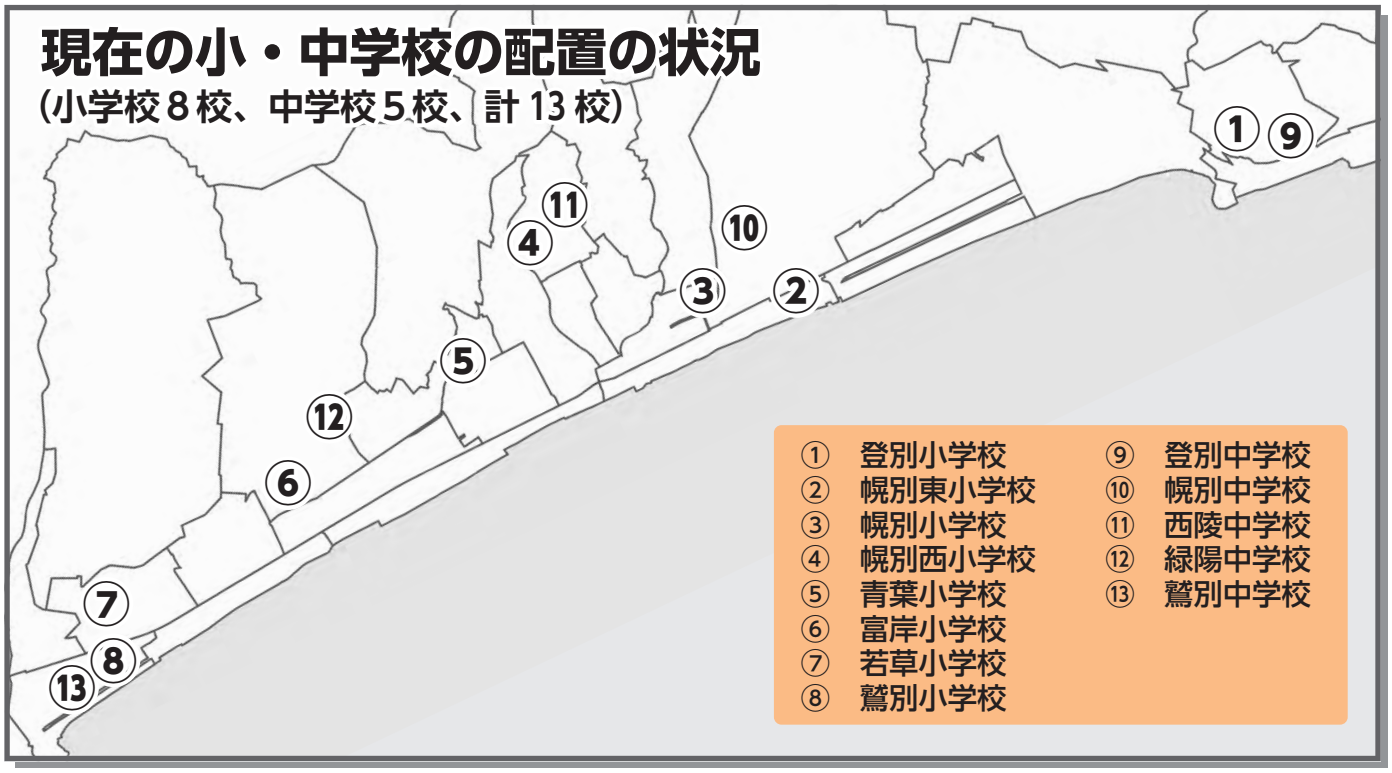
第2期の期間は、『基本計画』の次期計画期間に合わせて、令和8年度から令和17年度までと

2 『登別市学校適正配置基本方針』の主な内容

①学校規模の目安
小学校：1学年1学級以上
中学校：1学年2学級以上
②学級規模の目安　1学級20人程度以上（1学年1学級の場合）
③学校規模を適正にするための手法
隣接学校との統合・通学区域の調整、学校の新設など
④適正規模の確保にあたっての考え方
規模の目安を下回り、具体的課題が生じている学校は、③を用いて子ども達の教育環境を確保する。

3 『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』の主な内容

●望ましい学級
小学校：少なくとも1学年1学級以上が必要。2学級以上あることが望ましい。
中学校：少なくとも1学年2学級以上が必要。3学級以上あることが望ましい。
●通学の距離と時間の目安
小学校：おおむね4キロメートル以内
中学校：おおむね6キロメートル以内
※スクールバス等を利用する場合はおおむね1時間以内。



しています。

この間の児童・生徒数の推計値を基に、『学校適正配置基本方針』に加え、『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』も参考にしながら学校統合や学校新設などの取り組みを検討しました。

また、第２期は、第１期に比べ、より「将来の予想図」という側面があることから、小学校を東部地区（登別地区）と中部地区（幌別地区と富岸地区）、西部地区（鷲別地区）の３地区に再編成することなども想定しました。

児童・生徒数は、令和８年度で２千573人、令和17年度には１千965人まで減少すると予想されます。

西部地区（鷲別地区）の鷲別小学校は、第２期を通じて１学年１学級の状態が続くと予想されるほか、中部地区（幌別地区と富岸地区）の青葉小学校は、第２期の後半以降、１学年１学級の状態が続くと予想されます。

さらに、幌別小学校は、第１期中に幌別東小学校との統合を想定していますが、統合してもなお令和８年度には１学年１学級の学年が生じ、第２期後半以降は全学年で１学年１学級になることが予想されます。幌別西小学校も、第２期後半には全学年で１学年１学級になると予想されます。

このため小学校は、第２期中に西部地区（鷲別地区）の鷲別小学校と若草小学校を統合。中部地区（幌別地区と富岸地区）の４校体制（統合後の幌別小学校、幌別西小学校、青葉小学校、富岸小学校）を２校体制に再編成することを想定しています。

中学校は、第１期中に登別中学校との統合を想定している幌別中学校で第２期後半に１学年１学級の学年が生じるほか、西陵中学校も第２期を通じて全学年で１学年１学級の状態が続くと予想されます。

このことから、第２期中に幌別中学校と西陵中学校の統合を想定しています。

これらの取り組みにより、市内小・中学校数は、第２期中に７校にすることを想定しています。

第３期（令和18～37年度）

第３期の期間は、公共施設の整備や統廃合の指針となる『公共施設等総合管理計画』に合わせて、令和18年度から令和37年度までとしています。

第３期は、中・長期的な展望を示す観点から、現在の通学区域や第２期までの想定を前提としながらも通学区域を再編成することを視野に入れ、この間の児童・生徒数の推計値を基に、学校統合や学校新設などを検討しました。

児童・生徒数は、令和18年度には１千960人、令和37年度には１千308人まで減少すると予想されます。

小学校は、登別小学校を除く全ての学校で、第３期の全期間を通じて１学年２学級の状態が続くと予想されることから、第２期に引き続き、第３期も４校体制を維持することを想定しています。

また、中学校は、第３期前半には３校全てで国が望ましいとする１学年３学級を下回ることが予想されるため、第３期中に市内を２つの通学区域に再編成することを想定しています。

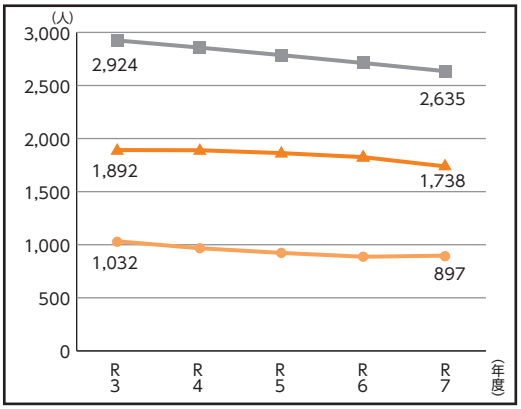
これらの取り組みの結果、市内小・中学校数は、第３期中に６校にすることを想定しています。

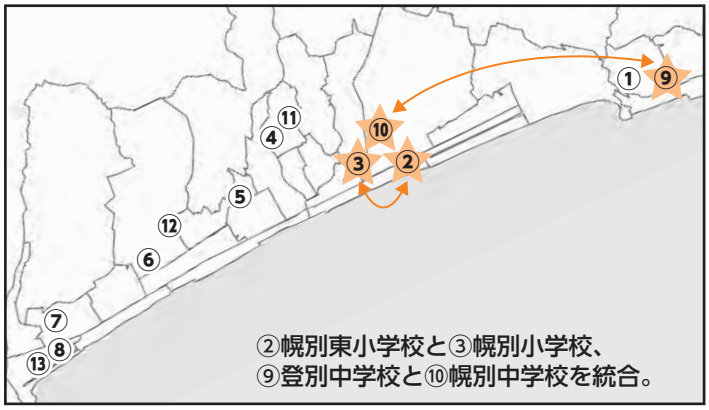
市内の児童・生徒数推計

▲児童数（小学生）　●生徒数（中学生）　■児童・生徒数
※グラフ中のRは「令和」を表します。

小・中学校のグランドデザイン

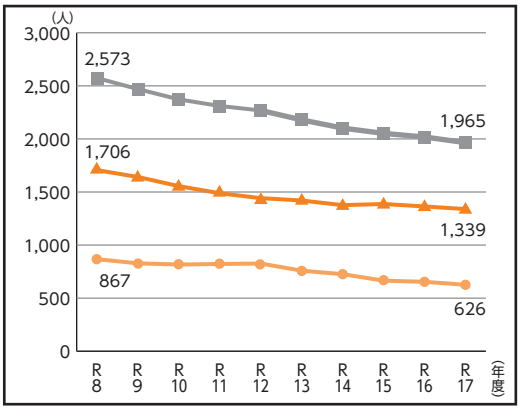
第1期（令和3～7年度）





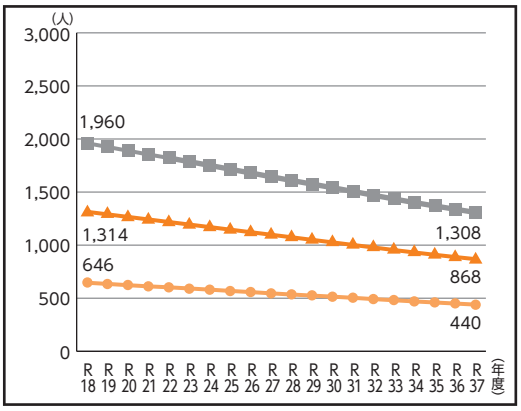
小学校７校、中学校４校、計 11 校

第2期（令和8～17年度）



小学校４校、中学校３校、計７校

第3期（令和18～37年度）



小学校４校、中学校２校、計６校

ここまで35年間にわたる小・中学校のグランドデザインについて説明してきました。

現在11校ある市内の小・中学校をこれからの35年で６校にすることを想定した内容に、不安を覚えた方もいるかもしれません。

しかし、このグランドデザインは、あくまでも現時点の児童・生徒数の推計に基づいて検討した想定に過ぎません。

実際にどのような形で適正な学校規模を確保し、子ども達の教育環境を確保していくかを決めるためには、保護者や地域の方と、さらに対話を重ねることが不可欠だと考えています。

市教育委員会は、このグランドデザインを基に、まずは第１期中に想定した「幌別東小学校の統合」と「登別中学校の統合」について、保護者や地域の方と議論を重ねていきます。

議論の内容や経過などは、今後も市民の皆さんに広くお知らせしていきます。